

令和5年度第1回一関市協働推進会議 会議録

- 1 会議名 令和5年度第1回一関市協働推進会議
- 2 開催日時 令和5年5月23日（火） 午後2時から午後3時45分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 栄養指導室
- 4 出席者
 - (1) 委員 小野寺健委員（会長）、千葉真美子委員（副会長）、太田真希子委員、小笠原あい委員、小野寺浩樹委員、小原雪男委員、小山賢一委員、金野陸夫委員、佐々木承子委員、菅原幸子委員、千葉昭博委員、千田博委員、千葉理恵委員、村田宰委員

※欠席委員 佐山克子委員、三浦幹夫委員

- (2) 事務局 小野寺愛人まちづくり推進部長、後藤治まちづくり推進課長、山崎政義課長補佐兼まちづくり企画係長、須藤直子主査、佐藤奈津子花泉支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、佐藤美紀大東支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、鎌田健治千厩支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、小崎ひろえ東山支所地域振興課長補佐兼地域協働係長、佐藤俊之室根支所地域振興課地域協働係長、吉川勝哉川崎支所地域振興課会計年度任用職員、小野寺嘉奈藤沢支所地域振興課地域協働係長

5 議 題

- (1) 令和4年度に協働で取り組んだ事業等の実施状況と評価について
- (2) 令和5年度に協働で取り組む事業等の実施計画について
- (3) 一関市地域協働推進計画（第3次）の策定について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 0人

8 小野寺愛人まちづくり推進部長挨拶

本日は、ご多用の中ご出席いただきましてありがとうございます。

市長につきましては、他の用務がございまして、私の方から挨拶を申し上げます。

皆様には、一関市協働推進会議委員の就任につきまして、ご快諾いただき誠にありがとうございます。今回、幅広い分野から委員を選任させていただき、

選任させていただいた委員の半数が新しい委員となっております。先ほど委嘱状を交付させていただきましたが、令和7年4月30日までの2年間の任期となっておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

さて、協働推進会議は、市民と行政との協働を推進するため、全市的な情報共有及び意見交換等を行う組織でございます。設置要綱に記載されておりますが、協働推進会議の役割については、協働の推進状況の評価及び検証、それから協働で取り組んだ事業の評価及び検証、並びに情報共有と意見交換、協働推進の全市的課題等についての情報共有と意見交換、それから計画の見直しの際の意見のとりまとめとなっております。

今年度については、令和6年度からの新しい一関市地域協働推進計画の策定のために皆様からご意見をいただくこととしております。時間の経過とともに、目的意識の変化と人口減少、少子高齢化など社会情勢が大きく変化している状況で、地域課題や市民ニーズも多様化しております。これまでの取組の成果と課題を踏まえて、一関市が取り組む地域協働の推進を図るための計画となりますので、各分野から積極的なご意見を頂戴したいと考えております。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

9 会長・副会長の互選

互選の結果、会長に小野寺健委員、副会長に千葉真美子委員を選出した。

10 審議事項

- (1) 令和4年度に協働で取り組んだ事業等の実施状況と評価について
- (2) 令和5年度に協働で取り組む事業等の実施計画について
資料に基づき事務局から説明を行った。以下、意見等。

委員 令和4年度に行った事業については、市が直接行った事業であり、市民が協働できているかというよりは、市が協働としてみなした事業が羅列されているのでコメントするのは難しい。一関市で協働が進んでいるのか一つだけ感想を述べさせていただく。

大型プロジェクトが近々行われることになっている。推進委員会という形をとってやっているが、推進委員会委員として関係各社や団体が集まっている。その中でイベントを実施する部会であったり、ブースを出展する部会だったり、部会制をとっているが、結果的には様々な意見は出るが後は事務局にお願いするようになってしまい、行政が大変な思いをしている。

今の協働基本計画に載っている理念に照らし、市民と行政がそれぞれの特性や特徴を持ち寄って成果が発揮されている姿かというところではなく、言いたいことだけ言ってあとは事務局にお願いするというのは、協働ができていないという現場に出くわしている。協働、協働と言いながら協働を進めていくのは難しいものだと実感している。結果的に、事務局である市が大変な思いをしていたり、市だけでは大変だから手伝おうと思い、それを助けようとした団体が大変だったり、そういったところと市に負担が寄っている。協働しているという姿は見せられても、中身で協働しているかという実態は伴っていない。

一関市の協働推進を評価したときに、そこまで至らないのではないかという感じがする。そうすると、市民側の育成や意識啓発というところに力を入れていかなければいけない。また、事業を通して共通の体験をすることも大事であり、協働をもう少し頑張って進めていかないといけないのではないかと感じている。

委員 元気な地域づくり事業で実施していた七夕祭りや夏祭りを合体して夏祭りを開催するが、七夕祭りの担当をしていた産業建設課の担当者一人が頑張っているように見える。それぞれに部会を設置してやればいいと私は思うが、私は実行委員でもないので黙っている。一人だけが頑張っているようなので、もう少し地域の若者の意見などを聞いたり、若い人を入れて部会を設置したりする必要がある。夏祭りがずっとそうだったが、担当の地域振興課だけでやっている夏祭りであり、今回は産業建設課だけでやっている夏祭りになっているように見える。

地域の自治会や商工会でも言っているが、市役所職員が出てこないのかという地域の声があるので、もう少し職員が出ることによって、行政の地域づくりになるのではないかと思う。実施された事業については本当に関係した皆さんが非常に一生懸命やられていたと感じた。

委員 年に一度、市長や市役所幹部職員、43の自治会が集まる協議会と藤沢の団体が一堂に会して市の支所事業の内容を聞いたり、意見交換をしたりして、最終的に地域の課題を提言書という形で市長に渡して、12月ごろには進捗状況を話してもらっている。住民が知らない情報がたくさんあり、情報を公開してもらいながら住民と進めるというやり方が進んでいる。

イベントについては、毎年8月の第2土曜日と日曜日に、野焼き祭りをやっているが、今年も第1回の実行委員会があり、担当は支所の産業建設課である。住民は部門ごとに役割があり、協働のまちづくりをやっているとしている。

委員 消防の防災メールや地域メールがあるが、それは協働で取り組んだ実績に記載されないのか。

委員 継続的に行われている事業なので、実績に載っていない。

協働を進めていくうえで、緊急メールについても重要な手段だと思うので、有効的な情報発信をしていただきたい。

委員 協働のまちづくりとは違うのかもしれないが、市民と行政が力を合わせていくということだが、私が働いている児童クラブについて、その建物の設計段階から関わらせていただきたいと要望を出した。しかし、私たちが意見を出した時点では決まっていたのでどうにもならなかった。実際に使ってみて、どうしてこういう作りだったのか、こうしてほしかったなどという意見がたくさんあり、新しく作るのであれば実際に使う人の意見を聞いて、使い勝手の良いものを造ってほしかったと思う。莫大なお金をかけたのに疑問に思うところが多く、両開きの扉だと子ども達が両方から元気に開けるので、手をはさんだりする。ちょっとしたことではあるが意見を聞いてほしかった。計画の段階から、市民の声や実際に使う人たちの声を聞いて作るという仕組みが大事だと思う。出来てしまったものをどうこう言っても仕方ないので、子どもにいかにけがをさせないで使うかを考えている。もし今後、新しい統合小学校や施設を造る考えがあるのであれば、実際に使う人たちの意見を聞いてからやるようにしていただきたい。

イベントをやるにしても、地域の人たちからの声が上がってこない、下の人たちはやらされているということで進まない。こういうのをやりたいといっても、もう予算がないと言われる。すそ野の意見を拾える仕組み、それが協働のまちづくりの基本ではないかと思っており、そこがまだできていないのではないかと思っている。

また新しい施設を建てる時など、ワークショップを何回もやっていると書いているが身になっていないと感じる。実施したという形式ではなく、反映される仕組みをこの会議の場だけではなく、すべての課

に伝えてほしい。そういうような仕組みができる会議になればいいと
思っている。

委員 意見を聞いていると、協働基本計画の理念のところ浸透している
ようでしていなくて、定義としている継続的な話し合いの使い方を間
違っている。建付けがよくないと感じてしまう。意見を聞いたという
アライバイになっており、もう少し上手に会議の設計をしなくてはいけ
ないが出来ておらず、協働が進んでいるようで進んでいない。ワーク
ショップを開催するときに、どういうワークショップにすれば有効的
に進められるかを想定していつもやるが、なかなか行政も時間がない
中でやるので、相談があってからワークショップを開催するまでの間
が短い。

委員 事例として、2番の行政などの支援策として、自治会などの活動や
地域づくり活動に対して補助金を交付することについて、私の住んで
いる自治会では、ペットボトルや缶などの有価物を交換する際に利用
している。自治会の役員が情報を集めて住民に呼び掛けている。プラ
スチックをごみとして出すのではなく、場所を設けて地元で回収して
自治会運営の足しになっているというのはいい事例であり、もう少し
広めてリサイクルにつなげてもらえたらと思う。

もう1つは、高齢化が進んでおり人口減少も進んでいるなかで、高
齢の方が住みやすいまちということで、難しいのかもしれないがそう
いった人たちの意見を吸い上げる仕組みができないのかと思っている。
また、若い人たちも都会に出ていくのではなく、市に残っていただ
くよう、そういった人たちの声を取り入れる仕組みができないかと
皆さんの意見を聞いて思った。

委員 総合計画や協働計画などがあるが、建物や道路など使う人のワーク
ショップはあまりないように思うので、実際に使う人が出来てみたら
不便を感じる。建物を使う人たちが子ども達を含めて、こういう建物
だったらいいというのをもう少し進めていけばいいのかと思った。

委員 事業を実施するときには目的や目的に至る背景があり、最後の評価
のところまで文字というのは、事業を実施した良し悪しが判断しにく
い。数字が上がったり下がったりなど、そういったところを今回新し
く計画を立てていく中では、評価をしやすい内容にしていくべきでは
ないかと思う。文字よりも絵や数字の方が各地域の高齢の方や若い方

には伝わりやすいと思うので、絵や数字で評価できるような作りをしていった方がよい。

(3) 一関市地域協働推進計画の策定について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、意見等。

委員 会議の回数が5回に増えたのはとてもよいことだと思う。前回も参加したが年2回しかないの、2年間で4回しかない。今回は1年間で5回ということで、次年度も同じくらいやってもよいと思う。

委員 協働推進会議の開催は、一関市の協働が推進されているかを議論するには年2回では足りない。自由に日常生活を見ながら協働が進んでいるか、現場間の状況を共有するだけでも、一人ひとりの意識が足りていないなど、事業の進め方に問題があるなどが見えてくるので、もう少し時間をとって議論した方がよい。

リサイクルは協働とは関係がないイメージだが、市民協働が進んでいかないと、リサイクル、リユース、アップサイクルは進んでいかない。商業も産業に関してもそれぞれが協働していかないと、事業連携が進んでいる中で、協働の意識がないと事業連携も進まない。特に、一関市の協働の理念は、話し合いをしながらお互いをパートナーとして認めて連携していくことなので、協働するということはすごく大事だと思う。深く議論しないと進まないと思う。

委員 地域協働推進計画の位置づけがわかりづらいので、総合計画の次に理念があり、次に地域協働推進計画があるというフロー図があると委員の皆さんもわかりやすいと思う。

11 担当課 まちづくり推進部まちづくり推進課